

7月11日、学部3年生を対象に恒例の「OB・OGと語る会」が開催されました。今年は玉城哲平氏（2011年物質工学科卒、2013年機能物質化学工学専攻修了（上田研究室）、現職ナビタスビジョンソリューション株式会社 画像検査装置のソフトウェア開発、と岡部俊明氏1999年物質工学科卒、2001年工学研究科物質工学専攻修了（佐藤・横山研究室）、2005～2010年環境情報学府環境生命学専攻（博士課程後期）修了（横山研究室）現職神鋼溶接サービス株式会社 技術調査部 技術室のお二方に講演をしていただきました。講演後はお二方を囲んで、懇親会が行われ、その席上でも熱心に話し合う姿が見られました。

以下にお二方のご講演の内容と学生たちの感想のアンケート結果を掲載させていただきます。

本会の参加者からは大変良い機会を提供いただいたと非常に好評で、今後も継続開催の要望が寄せられました。（会誌グループ）

## 国大化学会 OB・OG と語る会に参加して

岡部 俊明

恩師の横山先生（現 国大化学会会長）からの連絡で、学部3年生を対象としたOB・OGと語る会に参加する機会を頂き、講師を務めて参りました。大学3年生は、研究室選び、その先の就職活動と、将来を少しずつ意識し始める時期かと考え、『社会人になる前に知っておいてほしいこと』と題し、話をしてきました。

前半は、アイスブレイクの自己紹介からスタートし、私の業務内容について話を進めていきました。現在、鉄鋼系の試験調査会社に勤めており、特に溶接部に関わる仕事に多く携わります。溶接は、化学系の学生の皆さんには馴染みが薄い分野であり、どこまで伝わるものかと少々の不安を抱きつつ、動画や図を駆使し、出来るだけ平易に表現することを心掛けました。その甲斐あってか（いやいや、レポート作成のためか?）、皆さんが一生懸命にメモを取る姿を目の当たりにし、ひと安心するとともに、私の喋りのエンジンも本調子になって参りました。

後半は、表題のとおり、『社会人になる前に知っておいてほしいこと』について、具体的な内容に触れていきました。まず、学生の皆さんに『働くこととは、どういうことだと思いますか?』という問いを投げかけました（残念ながら、手を挙げて回答する学生は見当りませんでした）。続けて、私が考える『働くこと』とは、人や社会に役に立つ（貢献する、価値を提供する）ことであり、その結果、対価としてお金（給料）をもらうのである。また、社会人になるとは、未来を創造する一員になることだ



と、学生の皆さんに伝えました。今はピンと来ないと思いますが、例えば、将来の自分を考えるとき、就職活動時、社会人になって仕事に悩みを抱えたときなど、働くことの意味を考える初めの一歩になればとの思いで、上記のメッセージを送りました。

さて、講義では、以下のとおり、私が考える学生と社会人の違いに触れ、それぞれの項目で、社会人が求められる、または意識している要素について話を進めていきました。

①社会人は、やるべきこと・手段を自ら考えて行動していく。

（学生は、やるべきことが決まっていることが多い）

### 【求められる要素】

1. 主体的に取り組むこと（睡魔と社会人が取る行動を例に説明しました）
2. 周囲に働きかけ、巻き込む
3. 目標を設定し、やりきる

②社会人の多くの場面において、解答は一つでなく、その中から最適を探し出す。

(学生は、解答が決まっていることが多い)

【求められる要素】

1. 課題を見抜く (論理的思考が必要なクイズを織り交ぜながら説明しました)
2. 計画的に取り組む
3. 創造する (固定観念では解けないクイズを織り交ぜながら説明しました)

③社会人のコミュニケーションは、多様で、時間的制約もある。

(学生は、限定的になりがち)

【求められる要素】

1. 傾聴する
2. 相手の気持ちになって表現する
3. ジョハリの窓を全開に (意見を聞き入れる、手を挙げて意見すること)

そして最後に、上述の内容は、少し意識することで、学生生活を通じて経験・訓練できる場面が沢山

あることを話しました。

講義後の懇親会では、講義中は静かだった学生も (アルコールが入ったためか?)、大いに盛り上がり、若さとエネルギーを感じました。また、特に印象的だったことは、先生方と学生の距離感が近いことでした。良好な信頼関係は、学生の皆さんの成長を促すものと確信しております。

今回、講義の準備や学生との会話を通じて、自分自身を振り返り、また考えを整理する大変良い機会となりました。この記事をご覧になられているOB・OGの方々にも講師を引き受けることをお勧め致します。末尾になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった横山先生をはじめ国大化学会の皆さま、また講義に参加頂いた3年生の皆さんに感謝申し上げます。



## 大学時代からこれまでの転機

玉城哲平

「大学時代からこれまでの転機」というタイトルでお話させて頂きました。この機会に大学時代からこれまでを振り返ってみたのですが、本当に色々なことがありました。私はどちらかというと模範的な学生ではありませんでした。サークル活動やアルバイトに明け暮れ、自分の興味を持った分野の勉強はするものの授業は遅刻や欠席ばかり、テストも出来が悪く単位をいくつも落としていました。要領の悪い学生だったと思い返しています。

今回の講義は学部3年生ということで、自分が10年前から今まででどんなことがあり、自分が変わっ



てきたのか、当時思い描いていた夢や希望が現実になっているのか、気持ちの変化も含めてお伝えしよ

うと発表を準備しました。

大学は環境問題を解決できる太陽光発電の研究がしたいということで化学の道を選びました。大学生活を経る中でコンピュータへの興味も沸いていき、研究室選びの頃には迷いなく分子シミュレーション分野の上田研究室を志望しました。上田研究室では一般的な化学系の研究室とは異なりコンピュータが並んでいて黙々と学生たちが作業をしているという、化学棟の中では異質な研究室でしたが、分子シミュレーションの理論を学びLinuxやオープンソースの化学計算ソフトウェアを自分なりに調べて使ってみるという経験は、その後のソフトウェア技術者としての道を方向づけるものでした。

大学院も上田研究室に進学し修士課程を卒業しました。この2年間は非常に濃い日々で貴重な経験をさせて頂きました。日産自動車でのインターンシップやアメリカ短期留学、ベンチャー企業訪問などで多くの方々と出会い、刺激を受けました。

この研究分野への興味をそのまま持ち続けた私は最初の就職先にも科学技術計算業務を行う会社へ就職します。そこでもアカデミックな分野で活躍してきた非常に優秀な方々と出会い、刺激をもらいながら日々成長していることが実感できる毎日でしたが早1年後に転職を決意し、よりビジネス寄りの仕事ができるベンチャー企業に籍を置きました。そこで

営業的な交渉や、顧客目線のソフトウェア開発を行う中で沢山のことを経験しました。現在もその会社で新製品開発業務に携わっています。

このようなお話をさせて頂いた後の懇親会にて学生の皆さんとお話すると、「まだ就職については特に決めていない」「とりあえず大学院に行って適当な推薦を取って就職が出来ればいい」「懇親会よりも翌日の試験勉強が心配」という雑談をしながら、思い起こせば自分もそうだったなと懐かしい思いでした。皆と同じように研究をして卒業したらいい会社に入って何となく平凡な人生を過ごしていくのかと想像していました。実際には沢山の失敗や思いもよらぬ出来事ばかりで10年前には想像もしていなかった自分が今あります。

恐らく学部3年生の彼らもこれから色々な困難がありそれぞれの人生を歩んでいくのだと思いますが、今回の講義でお話したことがこの先岐路に立った時の参考になればうれしいと思いました。今後のご活躍を期待しています。

この「OB・OGと語る会」ですが、社会人の先輩が毎回2人、40分もお話をするということで、候補者選びに困難が想像されます。これまで毎年続いているようですがこの貴重な機会が今後も続くよう、同窓会の活動を応援していきたいと思っています。



## 「OB・OGと語る会」アンケート結果

自分の学生生活や将来について考える機会になった。社会人として活躍するために学生生活で何ができるかを学べた。主体的に行動することが大切なのがあった。

今学んでいることを生かした仕事を早くしたいと思った。好きなことを仕事にすべきと感じた。プライベートと仕事を全く別にするのは難しいとわかった

日頃話をする社会人は先生方や家族といった限られた人だけだったので、話自体が新鮮だった。大学で学ぶのは研究内容の有無に関わらず社会につながっているのがわかった。来年の就活を考えていたので、具体的な内容を聞いたのが良かった。

お話を聞いて勉強に対するモチベーションが向上した。転職について必要性、理由、可能性がよくわかった。働くとはどういうことか、就職の際に知っておかなければならない知識を教わった。有機系の研究開発に携わっている方の話も聞いたかった。

社会で活躍されている先輩方の話を聞いて、これから社会に出て働くことの意味や社会に出る前に出来ることを学ぶことができた。自ら行動すること、最適解を求めること、コミュニケーションをはかるのが、社会では求められていることがわかった。大学院生時代の活動や授業内容が分かって良かった。

転職を経験した方は、自由に動いて現在成功していると感じた。もうひとつ方は自分で目標を立て、それを達成でき、問題への対応、実行ができる人と感じた。自分の気持ちに従うこと、知識より経験だと感じた。また、社会に自分が生み出した価値を提供し貢献するこ

とだと思った。大学で大事なものは、研究内容もあるが、経験（コミュニケーション）の数だという点は参考になった。課題を見つけ解決しようとするのを意識しようと思った。

留学、転職など幅広く行動に移すべき、心情の変化は必ず起こるので、その時々で考えるべきだと思った。学生と社会人は違う。主体的に取り組めば自由も多いのがわかった。一社目はとても大切だと思った。大学院への進学後、留学、転職など凝り固まった考え方を柔らかくすることや、学生時代から主体的な行動をすることが大切だと感じた。

学生と社会人は様々な面で違いが多い。しかし、学生にしかできないことも沢山あり、今のこの時間を有意義に使いたい。様々な経験をするのは大切、苦手なことでも何でも挑戦することが大切だとわかった。プライベートと仕事を割り切ることは難しいが、どちらも充実し楽しめるようにすることが大切だとわかった。

今日の話聞いて後悔のない学生生活を送ろうと思いました。何だかんだと言い訳せず、様々なことにチャレンジしていこうと思います。学生のうちにやっておいた方が良く、やるべきだということが何なのかがわかりました。

仕事とプライベートは切り離せないというのが印象的だった。社会人にならないと分からないことが多いと感じた。社会に出ると視野が広がるのだと思った。自分の理解と他人の理解を照らし合わせる事が重要だと思った。就職の際の具体的な駆け引きについても知っていたかった。

社会に出たら主体性、コミュニケーション能

力が非常に大事になっていくのだなと思いました。働くということは自分の価値を社会に提供するという、社会人になるということは選択肢が増えるとともに責任感も大きくなるのだと感じました。

アルバイトから様々な知識を学んでこられたことは、自分にはできていないことだと感じた。色々な本から学ぶことも多いことが分かったので、最近あまり本を読んでいなかったのを読んでみようと思いました。1社目の経験がとても大事、成功するには粘り強さが大事、課題を見抜く、計画的に取り組み創造する、コミュニケーションを取り傾聴することが大切と感じた。

玉城さんはやりたいことを仕事につなげられている良い例だと思います。仕事を決める上で様々な面から考えなければならないと思いますが、好きなことをつなげられれば、玉城さんのように自分の仕事について楽しそうに話せるのかなと思いました。

社会に出ても勉強は続くのだなと改めて実感させられた。社会人になったら受け身ではなく自分から積極的に取り組んでいくことがより重要なのがわかった。共感することが多く、自分のことに置き換えて将来について考えられた。

普段あまり聞く機会がない企業の話や社会人にとって必要なことや社会人になってできることを知ることができありがたかった。考え方は人生の段階によって変わるが、本性は変わらないので、焦らず自分自身と向き合うことが大切だとわかった。仕事とプライベートは切り離さない、既存の考えにとらわれず、最適の解決方法を見出すのが大事なのだと感じた。企業だけではなく学術関係の仕事をしている方の話も聞きたい。

自分の意志次第で人生のターニングポイントが変わるのだなと思いました。化学という分

野は社会において無限の応用の可能性があると感じた。プライベートと仕事は切り離せないという話は参考になった。

実際社会に出て働いている人の話を聞いて、自分がこれからどうすべきか考えることができた。働くということに対する負担が減った。未来にそこまで不安を感じなくてもゆっくりしていけば良いことや、社会人としての心構えがわかった。

自分が興味を持ったことに挑戦することが大切だと感じた。自ら考え、複数ある内での最適解を見つけられるように心がけてみたい。学校での勉強、卒業研究に関係ないことでも積極的に挑戦するべきと感じた。

院生、社会人になってから主体性を問われるのだと思い、学部生のうちから徐々に主体的に行動しようと思った。また研究室や就職先などが自分の志望通りにならなかったとしても、その場所でどう成果を残せるのかが大事だと分かった。

キャリア系統の一般教養の授業はこの大学にいくつもあり、うち3つを履修した身としては、似たようなお話しの中に収まっているのが残念でした。社会に出てからどのような心持であればよいのか、どのようなことに注意すればよいのかといった働く上でどのようなことが大切になるのかといったことを感じた。

OBやOGの方の話や聞く機会はこれまで無かったので新鮮だった。学生時代の経験や行動が社会に出てから役に立つこともあるということが分かった。また化学系の学科を卒業しても、必ずしも直接化学と関わるような進路だけを考える必要はなく、もっと幅広く進路を考えようと思った。

人生において好きなものを突き詰めることの大事さ、それを仕事にすることの大切さを感じた。自分が何に向いているのか、何が好き

か、そのどちらを仕事にするかなどの選択肢は多くの経験をして初めて明確になるのである。学生で求められることと社会人として求められることには差があるので、対応できるように準備をする必要がある。

自分の状況を客観的に把握し冷静に対処することが大切である。学生と社会人とのつながりや違いについて分かった。

将来のことは早いうちから考え、考え続けることが大事だと感じた。人の本質はあまり変わらないため、色々経験しつつ、考えていたことを振り返るのは大切である。

同じ社会人でも経歴が違えばやりたいことも仕事も変わってくるということを実感した。

また現在大学で学んでいることは社会に出ることの基礎になる。

自分の研究したい分野の研究職に就くことの難しさを感じました。いろいろなことに挑戦していくことが大事であると感じました。

実際に会社で働いている人たちの生の声を聞くことができたので、よい機会だったと感じた。大学で学んだことをどのようにして自分の進路に役立てるべきかと感じた。

会社で研究をしている方々は何となく別世界の人のように感じていたが、話して下さったOBの方々の学生時代の話を聞いたことでとても身近に感じられた。